Peppolが輝かせる「主役」たち ～森永乳業、デジタルインボイスの「自分ごと」化～

2025年11月12日、デジタル庁は、森永乳業株式会社と株式会社ワークスアプリケーションズ（以下、WAP）との間で、デジタルインボイスの取組について意見交換を行いました。

森永乳業は、システム選定段階からデジタルインボイスの活用を見据え、現在は請求書受領業務の電子化をほぼ完了。そのうえで、WAPを含む一部取引先との間でデジタルインボイスの利用も開始しています。

同社は「デジタルデータであればOCRや手入力が不要。紙や画像データではなくデータで受領できることによる効果を実感している。Peppol e-invoiceはベンダーフリーなデータのやり取りが可能であることに大きな利点があると感じており、さらに普及していくことを期待している」とコメントしています。

一方で、大手企業特有の課題もあります。「取引先が多く、各社のシステムやフォーマットの違いにより導入時の調整コストが高い」との意見もありました。

森永乳業株式会社（左側）と株式会社ワークスアプリケーションズ（右側）の皆様

意見交換の様子

WAPは「森永乳業様の実運用から得られる知見は業界全体での普及に貴重であり、当社も会計ERPを含むサービスに活かすとともに、他社サービスとの連携を強化していく」とのカ強いコメントがありました。

両社は、今後も協力して取引先にも利用しやすい仕組みを構築し、取引先を巻き込んだデジタル化の推進に取り組む方針を共有しました。